

ヤシユウハナゼキショウ *Tofieldia nuda* Maxim. var. *furusei* Hiyama

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 15。岩崖地性の植物で、愛知県は分布域の西限にあたる。県内では生育地が少なく、また園芸目的の採取により減少している。

【形態】

多年生草本。地下茎は短い。根出葉は 2 列に重なり合い、中脈に沿って表面を内にして折れて剣状になり、線形で長さ 5~25cm、先は長くとがり、全縁である。花茎は高さ 10~30cm、2~3 個の小型の葉がつき、平滑である。花期は 7~8 月、花茎の先端に長さ 3~12cm の総状花序をつけ、それぞれの苞の腋に 1 個の花をつける。花は斜め上向きに咲き、長いもので長さ 9~15mm の柄があり、花被片は 6 個で白色、線状長楕円形、長さ 3~4mm である。果実は蒴果で卵状楕円形、種子には尾状付属物がない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 39929, 1992-10-10)、8 鳳来北東部 (加藤等次 1685, 1992-8-15)。

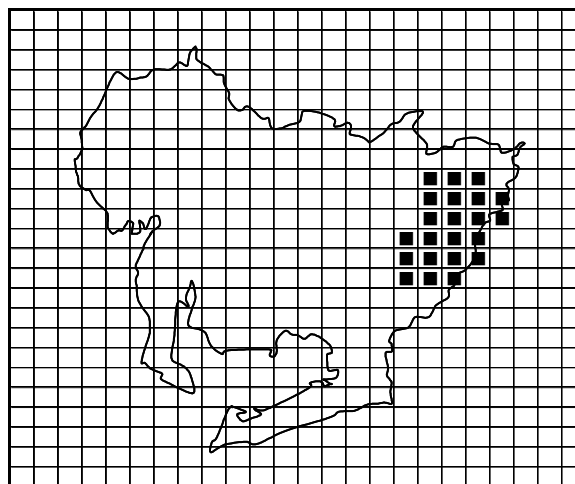
【国内の分布】

本州 (栃木県、愛知県、和歌山県)。

【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩崖地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

ももとはそれほど少ない植物でなかったが、園芸目的の採取による減少が著しい。手が届く場所のものは、ほとんど消失している。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

レッドデータブックあいち 2009 植物編では、ハナゼキショウとして掲載した。

【関連文献】

保草本Ⅲp.155, 平草本 I p.27, 平新版 1 p.113, SOS 旧版 p.95.